



「楽寿園で雪あそび」で広報活動



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之¹等陸佐）は、3月5日（日）に楽寿園（三島市）で行われた「楽寿園で雪あそび」において広報活動を行った。

このイベントは、青少年健全育成事業の一環として8年前から開催され、人工雪を前夜から運び込み3メートルの雪山が作られる。当日は子供たちが雪に直に触れ、そりで遊ぶ等多くの家族連れが楽しんだ。

自衛隊は、雪山の隣に陸・海・空各自衛隊の紹介パネルと陸上自衛隊車両を展示するとともに、子供用迷彩服の試着体験コーナーを設置した。子供たちは見慣れない自衛隊の小型トラックに興味津々な様子で、子供用迷彩服を試着してトラックとともに記念撮影を楽しんでいた。

自衛隊ブースに来場した家族連れは「自衛隊のいろいろな広報イベントに、毎回行っている。今回も自衛隊を身近に感じることが出来て良かった」と楽しそうに話していた。

静岡地本は、今後も地域との連携を密にし、各種イベントにおいて自衛隊に対する理解促進と入隊志願者の獲得に努めていく。

清水で護衛艦2隻に3600人が乗艦



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之¹等陸佐）は、3月25日（土）、清水（静岡市）において、護衛艦「いかづち」と「はたかぜ」の2隻同時入港に伴う艦艇広報を支援した。

この日は普段目には出来ない護衛艦が2隻同時に入港している様子を見ようと、凍えるような寒さにも関わらず県内外から多くの見学者が訪れた。

「いかづち」では、学生等の若者やその家族等を対象とした特別公開が行われ510人が参加した。この特別公開は約30人ずつのグループに分かれ、乗員の説明を聞きながら艦の装備品、艦橋、旗流信号等の特色ある場所を約1時間かけてじっくりと見学した。

また、同艦に勤務する島田樟誠高校（島田市）卒業生の八木雅人士長は、参加した母校の在校生4人に会うと、海上自衛隊の魅力や艦艇勤務の様子を丁寧に伝えていた。

一方、「はたかぜ」では誰でも乗艦し見学ができる一般公開が行われ、開始前から乗艦を待つ長い列ができ午前と午後合わせて3089人が見学した。艦の全長150メートルの大きさに驚くとともに、迫力ある5インチ単装速射砲をカメラに収める姿や、現役乗組員に艦や装備品について質問する姿が見られた。

また静岡地本の広報ブースでは、隊員の採用や制度に関する説明、迷彩服の試着体験、ビデオ上映、車両展示を行い活況を呈した他、マスコットキャラ「しずぼん」が登場すると大きな盛り上がりを見せた。

静岡地本は今後も多くの市民や若者が自衛隊と触れあう機会を積極的に設け、自衛隊や隊員に親んでもらう理解促進を図るとともに、国防という崇高な使命を果たす若者の獲得に努めていく。